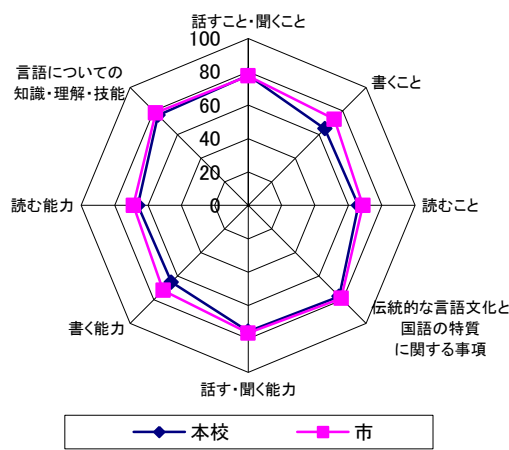


宇都宮市立城山中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	78.0	77.6	76.3
	書くこと	65.0	73.0	56.1
	読むこと	66.1	68.8	63.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.1	78.8	71.6
観点別	話す・聞く能力	75.4	76.5	75.4
	書く能力	65.1	72.0	58.1
	読む能力	66.1	68.8	63.9
	言語についての知識・理解・技能	76.3	78.4	70.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

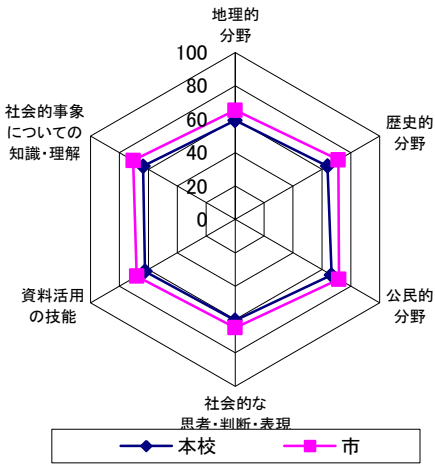
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「司会者の工夫を聞き取ること」と、「話し手の意見に対して自分の考えをもち、質問すること」がよくできていて、市の平均を5ポイント程度上回った。 ●「話の内容を正確に聞き取ること」は市の平均を5ポイント下回った。	・今後も聞き取りテストを授業の中で実施し、メモの取り方なども指導しながら経験をつませていきたい。
書くこと	●各設問において、市の平均を下回るものが多かった。特に、設問の条件である「3段落構成で文章を書くことができる」「文章の内容に沿ったまとめを書くことができる」を満たすことができず、9ポイント程度下回った。	・書くことの学習として、「文章の内容に沿って意見を書く」課題や「段落構成を指定して意見を書く」など、条件を提示して考えをまとめる学習を意識的に取り入れていく。
読むこと	○「文章の展開に即して内容を捉えることができる」「文章の構成や展開をとらえることができる」は市の平均を3ポイントから6ポイント上回った。 ●「広告の内容を読み取り、その内容を整理することができる」「広告の内容を読み比べて、自分にあった商品を選ぶことができる」は市の平均を12ポイント下回った。	・文学的文章の読解の学習においては、登場人物の心情の読み取りは、表現されていることをもとに読み取りの根拠を明確にしてまとめさせる。 ・説明的文章の読解においては、適切な資料を選んで内容をまとめる練習を計画的に行わせる。特に、複数の文章を読み比べて、その特徴を文章でまとめる学習を多く取り入れていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みでは「脈絡」書き取りでは「増す」「焼く」などが市の平均を上回り、「めでたひ」を現代仮名遣いに直すことも市の平均を2～4ポイント上回った。 ●漢字の読みで「兼ねる」書き取りで「規模」が市の平均を下回り、敬語についての理解では「申して」を「おっしゃって」に直せない生徒が多かった。	・漢字の読み書きは、授業の初めに小テストを行い、漢字の学習を充実させる。（年間32回の予定） ・敬語の学習において、補充プリントを用意し、繰り返し学習させていく。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	59.2	65.4	52.7
	歴史的分野	63.9	71.3	64.1
	公民的分野	66.7	71.8	68.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	60.5	64.9	53.5
	資料活用技能	62.4	68.0	57.3
	社会的事象についての知識・理解	63.7	70.6	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

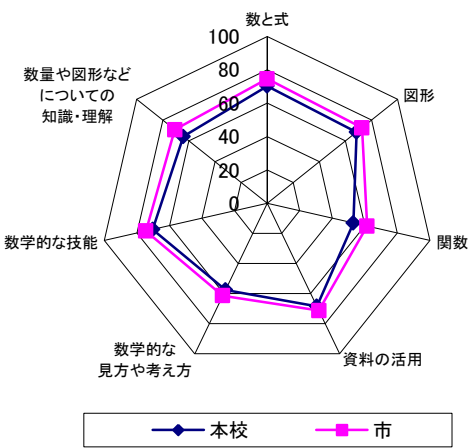
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○ 農業地域や発電所の分布を表した主題図を読み取り、把握することは概ね良好である。 ● 地図上の地点の緯度・経度を読み取ることが苦手である。 ● 資料をもとに考察し、説明することが苦手である。	○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの ・日頃から地図帳を見ることを心掛けさせ、様々な地図に親しませる。 ・資料活用技能のみならず、そこから読み取ったことを適切に表現できるようにするため、自分の考えを文章化させる。
歴史的分野	○ 複数の資料をもとに考察し、説明することは概ね良好である。 ● 事象をもとにした設問への正答率が低く、知識理解が不十分である。	・歴史的事象の相互の関連を意識させ、歴史を大観的にとらえることにより、学習内容をきちんと整理して理解させる。 ・歴史的事象への興味・関心を高めるとともに、問題演習等により、知識の定着に努める。
公民的分野	○ 地理的分野や歴史的分野の学習で学んだことを生かすことができている。 ● 制度や原理など、公民的分野特有の内容の理解が不十分である。	・時事問題への興味・関心を高めることにより、制度や原理を実際に起きている社会的事象を通して理解させるようにする。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	70.3	74.7	72.4
	図形	68.4	72.7	62.3
	関数	52.9	61.3	52.1
	資料の活用	68.4	71.3	55.6
観点別	数学的な見方や考え方	57.5	61.4	45.2
	数学的な技能	70.3	74.6	69.7
	数量や図形などについての知識・理解	64.3	70.8	61.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

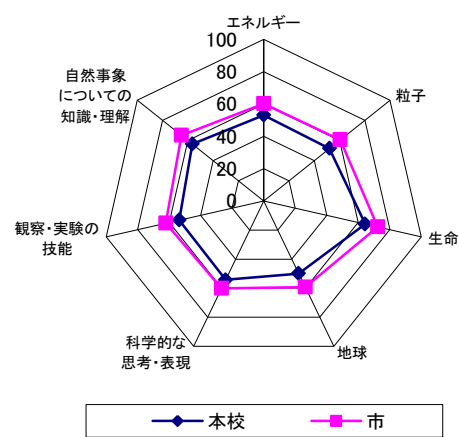
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○多項式と単項式の計算や乗法公式を使っの式の展開の計算は8割～9割前後の正答率である。 ●因数分解や2次方程式を解く問題については5割を切っており、理解していない生徒が非常に多い。 ●平方根の分母の有理化をする問題でも5割を切っており、苦手としている生徒が多い。	・「数と式」の領域は、数学全般を学習する上で必要不可欠な部分である。ドリルなどを実施して、しっかりと身に付けさせる必要がある。複雑な式の計算を苦手としている生徒が多いので、基礎・基本を押さえ、やや複雑な計算の問題を小テスト形式で行い解答・解説を実施する。
図形	○垂線を作図する問題については、8割以上の正答率であり、市の平均を上回っている。 ●図形の性質と証明では、証明の内容を正しく読み取り証明を完成させる問題の正答率が42%となっており、苦手としている生徒が多い。	・初めは簡単な図形の証明の問題を解くことにより、証明の手順を身に付けさせる。その時、何が仮定で何が結論なのかをしっかりと確認させたい。その後、やや複雑な問題を解かせて、使える条件を十分に利用することの大切さを指導する。また、プリント学習の時間を導入する。
関数	○関数を式で表す問題については、市の平均と同程度であった。 ●グラフ上の点を求めたり、問題の条件に合う長さを求めたりする問題では、正答率が5割以下となっており、苦手としている生徒が多い。	・グラフを使って、様々な関数の問題演習を行う。その時いろいろな解き方を考えさせたい。また、他の領域との関わりがあるので、わからない時はその都度確認させたい。
資料の活用	○資料の活用の問題では、平均値や確率を求める問題については、8割を超える正答率となっている。 ●度数分布表から相対度数を求める問題が、5割を下回っており、苦手としている生徒が多い。	・度数分布表とヒストグラムの関連について、しっかりと定着できるよう確認しながら、授業を進めたい。日常生活の中で確率の考え方が利用されていることに気付かせ、身近なものとしてとらえさせたい。 ・やや複雑な確率の問題にも挑戦させたい。その際、正しく場合分けができるようにする。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	53.0	60.2	57.6
	粒子	52.1	60.6	55.1
	生命	64.4	72.3	63.6
	地球	49.9	59.3	50.4
観点別	科学的な思考・表現	54.3	60.2	57.3
	観察・実験の技能	53.5	62.1	57.5
	自然事象についての知識・理解	56.4	65.2	57.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

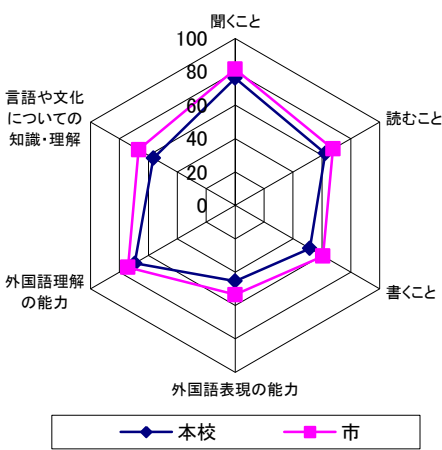
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○物体のいろいろな運動では、思考力や技能を問う問題の正答率は、市の平均を上回っている。 ○電流と磁界では、電流の大きさと受ける力の大きさととの関係を問う問題では、ほぼ市の平均と同じである。 ●力と圧力では、水圧と水の深さの関係を問う問題で、市の平均を8ポイント下回っている。 ●電流と磁界では、誘導電流の流れる向きを問う問題では、市の平均を15ポイント下回っている。	・実験で学んだことが知識として習得されていないので、発展的な問題を解決する力が身に付いていない。実験の結果の確認だけで終わらせることなく、考察やその後の問題演習などを通して理解を深めていけるようにする。
粒子	○気体の発生と性質では、水上置換法に適した気体の性質を説明する問題では5ポイント、酸素と二酸化炭素を区別する方法で誤っているものを指摘する問題では2ポイント市の平均を上回っている。 ●酸・アルカリとイオンでは、全体的に市の平均を大きく下回っている。	・粒子概念が身に付いていない生徒が多いと思われる。1年生の水溶液や2年生の原子・分子の単元とも関連付けて指導していくとともに、1、2年生のうちから系統的に学んでいけるようにする。 ・モデル図などを効果的に活用し、視覚的にわかりやすく説明していくようにする。
生命	○植物のからだのつくりとはたらきでは、葉の気体が入り出す部分の関係を問う問題では、市の平均を上回っている。 ●生物と細胞では、多細胞生物の成り立ちを問う問題、また、遺伝の規則性と遺伝子では、メンデルの実験を問う問題で市の平均を大きく下回っている。	・生物と細胞、遺伝の規則性の単元では、多くの専門用語が使われており、その語句や意味を正確に覚えたり理解したりすることが不足している。小テストや定期テストへの家庭学習の取組を通して身に付けていけるように指導していく。
地球	○地層の重なりでは、柱状図から過去の火山の噴火を読み取る問題の正答率が70%でよくできている。 ●雲のでき方と水蒸気では、市の平均を7ポイント下回っており、正答率が50%程度であった。	・雲のでき方と水蒸気では、雲のでき方をそのしくみから理解することが不足していたと思われる。表面的な知識の習得だけでなく、科学的根拠に基づいて説明ができるような思考力と表現力の育成を図っていけるよう指導していく。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	76.2	81.7	75.3
	読むこと	62.4	67.7	62.9
	書くこと	51.6	60.7	52.8
観点別	外国語表現の能力	45.4	53.5	44.8
	外国語理解の能力	69.4	74.2	67.8
	言語や文化についての知識・理解	56.5	66.8	63.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○絵の内容を適切に表している英文を答える問題では正答率が高くなっている。 ●対話の内容を聞き取って適切に応答する力や、英文の要点を聞き取る力はやや不足している。	・ALTとの授業では、生徒との対話をできるだけ増やし、生徒同士でも場面設定などを工夫していきたい。また、生徒にはできるだけ自然な英語を聞く機会を与えるとともに、CD教材やDVDを使ったリスニング練習を増やすようにして、今後もリスニングの定着を図るように努めていきたい。
読むこと	○対話の流れとグラフから適切な会話を判断することや、メールの概要を把握して答えることはできていた。 ●語形や語法の理解についてはばらつきが見られた。また、英文の要点を理解し、適切な返答をすることや、英文と資料の情報・条件から相手の意向に適切に応じる力が不十分である。	・英語の文章の段落ごとに、何を言っているのかを簡単にまとめさせる練習を増やし、その概要や要点をつかむような読み方の指導に力を入れていきたい。また、様々な内容の長文を読む機会を増やすなどして、長文に対する苦手意識をなくすようにしていきたい。
書くこと	○「自分の行ってみたい場所」については、まとまった内容で説明する3文以上の英作文はできていた。 ●単語を正確に書くことが苦手だということもあり、英文を正しい語順で書いたり、対話の流れにあった英文を書くことが難しいようだ。	・日頃より単語の練習に力を入れ、反復練習によって正しいスペリングを覚えるようにさせる。また既習の文型を使っての英作文などを実施して、基本文の定着を図るようにしたい。同時に、基礎・基本の定着を図りつつ、自分自身のことや周りのことなどを自由に英語で表現する力を身に付けさせたい。